

台風から身を守る

毎年起こる台風被害

7月から10月にかけては日本に接近・上陸する台風が多くなり、大雨、洪水、暴風、高潮などをもたらします。今回来ている台風8号は7月に日本に来る台風としては非常に大型で強い台風です。すでに暴風域に入っている沖縄地方では特別警報も出されています。今後は進路を東寄りに変えて日本を縦断する恐れがあります。台風の被害から身を守るため、前もって対策を立て、最大限の警戒をしておくことが大切です。

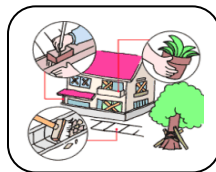
台風災害を防ぐために

1. 台風が来る前に

台風が接近してから屋外へ出るのは危険！情報を利用して台風が来る前に対策を！

* 家の外の備え

- ・窓や雨戸はしっかりと鍵をかけ、必要ならば外から板を打ち付け補強する。
- ・庭木に支柱を立てたり、塀を補強する。
- ・溝や排水溝は掃除して水はけをよくしておく。
- ・植木鉢や物干し竿、ごみ箱などの飛ばされそうなものは固定するか、屋内に入れておく。



* 家の中の備え

- ・雨戸を閉め、割れたときのガラスの飛散を防ぐためにガラス窓にテープを貼ったり、カーテンやブラインドをおろしておく。
- ・非常用品の確認・・・懐中電灯、携帯ラジオ、救急薬品、衣類、貴重品
非常用食料、携帯ボンベ式コンロ、マッチなど
- ・断水に備えて飲料水を確保するほか、浴槽に水を張るなどして生活用水を確保する。



* 避難場所の確認

- ・学校や公民館など、避難場所として指定されている場所への避難経路を確認する。

2. 台風が接近しているとき

* 台風情報に注意する。

- ・気象台からの最新の気象情報がテレビ、ラジオで伝えられる。情報を得たら、再度家の周りの安全確認をする。

* 注意報・警報に気をつける

- ・被害の出る恐れがあるときは、注意報・警報が発表されるので最新の情報を入手する。

* 危険な場所に近づかない

- ・雨で増水した小川や側溝は境界線が見えなかったり、冠水した道路上では浮き上がったマンホールも見えにくいため、転落事故が多発する。また、山崩れ・がけ崩れも起こりやすくなるので、日ごろ安全な場所でも油断せず、このような場所にはむやみに近づかない。

3. 台風が上陸後

- * 家から出ない。特に、海岸・川岸付近は危険！

- ・ハザードマップで付近の危険地域を確認。

- * いつでも避難出来るようにしておく。

- ・危険地域になっていなくても、「うちは大丈夫」「まだ大丈夫」と甘くみず、早めの避難行動をとる。

- * 警戒は最後まで

- ・台風が通り過ぎたり、熱帯低気圧に変わったりしても、吹き返しの強い風が吹いたり、雨が降り続いたりすることがあるので、警報や注意報が解除されるまでは警戒を続ける。



台風による主な災害

1. 大雨

- * 台風の進行方向右側の地域では、大雨に対するより一層の警戒が必要！

- ・台風の南よりの暖かく湿った強風が、南～南東の山地の斜面に吹き込み、地形によって強制的に空気が上昇することで、雨雲が非常に発達し、激しい雨を降らせることがある。

- * 台風+前線+高気圧

- ・停滞前線に向かって、台風や太平洋高気圧から暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発になる。台風が離れていても前線付近では大雨に警戒すること。また、必ず最新の気象情報を確認し、河川の氾濫、土砂災害にも警戒が必要。

2. 高潮

- * 南に開けた湾で高潮注意！

- ・台風の風は反時計回りで進行方向の右側で強くなっているため、陸地にいきこんだ湾で台風が西側を北上した場合に、南風が吹き続けて高潮が起こりやすい。特に、遠浅で南に開いた湾や満潮時刻が重なった場合は警戒が必要。

3. 強風・暴風

- * 台風の進行方向右側では強風に注意！

- * 入り江や海峡など地形の影響を受けるところでは強制的に注意！

- * 吹き返しの風に注意

- ・台風の目の通過前に南よりの強風から、接近とともに猛烈な南風になり、台風目の過ぎ去ったあとに反対の北よりの風が強風が吹き返すことがある。

- * 海岸近くでは塩風害に注意

- ・強い風が海から陸に向かって吹き込む場合は、多くの塩の粒子が運ばれ、植物の枯死や停電を起こすことがある。

- * 山地の風下でフェーン現象による高温・乾燥に注意

- ・台風が南海上から近づき、日本海側に暖かく乾燥した南風が吹き降りたとき、その地方は高温乾燥となり、火災が多発しやすくなる。

